**北海道トレセンU-16リーグ　兼　平成２６年度国民体育大会（少年の部）予選**

**第１節（道央U-16　vs　札幌U-16）レポート**

道央U-16スタッフ　岸本　拓洋（小樽工業）

今回のトレセンリーグに向けて６月１日に千歳・空知・小樽のブロックトレセンマッチを行い、その中から２０名の選手を選考しリーグ戦に臨んだ。今リーグにおいては各節１６名の登録・最大５名の交代枠という中で２０名を選考したのは各節においてコンデイションの良い選手を起用する為、また怪我等の諸事情による不参加を見込んでの選考となった。選考された２０名でのトレーニングを６月１４日に設定したが天候に恵まれず、トレーニングをすることが出来なかった。そのため選手のプレースタイル・個性の把握やチームコンセプトを浸透させる事ができない状態で第１節を迎える事となった。

|  |
| --- |
| 日時：６月２１日（土）会場：札幌市東雁来公園サッカー場結果：◯４−３（３−２、１−１）　PK：◯３−２システム：4-4-2（各ポジションの表記は左から右）[前半] 　　　　　　　　　　　　　　　　［後半］GK：①成田　　　　　　　　　　　　　　　GK：⑰相馬DF：⑭荻野、③山崎、②中村、⑤安田　　　DF：⑱吉田、③山崎、④丹野、⑳山本MF：⑮楠、⑦本間、⑥宮本(C)、⑨武井　　 MF：⑯川口、⑦本間、⑬小澤、⑧高路FW：⑩佐倉井、⑲松永 FW：⑩佐倉井、⑪成田 |

【試合展開】

試合序盤はダブルボランチが共にポジショニングが高くとってしまいCDFとの間にスペースを開けてしまった。札幌トレセンは縦の２トップ（⑨、⑰）を組んでおり⑨の裏を狙う動きによってDFラインが下がるため、より大きなスペースを与えてしまい、そのスペースに⑰や中盤の選手が顔を出すことが多かった。

前半4分　札幌トレセンに右サイドを崩されクロス、逆サイドの選手がフリーとなってしまうも危機を逃れる。

1st DFのインターセプトを狙う動きに対して周りの選手がカバーリングを取る意識が低く、突破を許してしまった。

前半13分　札幌トレセンのトップ⑨が裏へ抜け出すもCDFの寄せによって防ぐ。

前半15分　⑨武井から⑩佐倉井へのパスが繋がりDFを交わしてシュートするも外れる。

前半19分　中盤で相手のショートパスをカットした⑥宮本から⑨武井、⑨武井から⑩佐倉井というテンポの早い繋ぎから⑩佐倉井がドリブルで抜け出しGKと１対１となった所を冷静に流し込み先制点を奪う。（道央１-０札幌）

前半23分　2ndボールの処理を行った③山崎の1stタッチが少し流れた所を札幌トレセン⑨のチェックを受けて奪われ、シュートまで持っていかれるもCKに逃れる。

しかし直後のCKからこぼれ球を札幌トレセンに押し込まれて失点する。（道央１-１札幌）

前半25分　札幌トレセンFWとDFが同数の状況であわやカウンターかと思われたロングパスをハーフウェイライン付近で③山崎がインターセプトし、そのままドリブルで持ち上がりシュート。これが決まり再びリードする。（道央２-１札幌）

前半27分　左MF⑮楠と左DF⑭荻野の縦の関係の部分で1st DFの決定が曖昧になってしまいアプローチが弱く限定できないことから2nd DFのポジショニング、マークが甘くなり札幌トレセンにコースやスペースを与えてしまい後手を踏む局面が増えていく。その中で左サイドをドリブルで仕掛けられファウルを犯してしまう。札幌トレセンの早いリスタートに対してマークが付いておらず失点してしまう。（道央２-２札幌）

前半30分　手数を少なくした早い繋ぎの中から⑩佐倉井への楔のパスが通り⑩佐倉井から⑲松永へラストパス。GKと１対１となった⑲松永がこれをしっかりとものにして３点目を奪う。（道央３-２札幌）

前半33分　27分とは逆に1st DFの決定に対しての2nd DFの準備が出来てない為に縦パスを入れられてしまい、取りどころを失ってしまった事から前を向かせた状態で相手と対峙する局面が増えていき、左サイドを崩されDFとGKの間にクロスを入られる。

前半35分、38分　同様に左サイドで狙いを持った守備が出来ずにいる所を札幌トレセンに付け入られ、崩されるも３-２と１点リードした状態で前半を終える。

前半において攻撃では手数を掛けずに早いテンポでFWに預けてサポートに入った選手との少人数での崩しからシンプルにシュートまで持って行く事が出来た。守備では前半の早い時間帯でボランチのバランスを修正しバイタルのスペースをケアすることは出来たが時間が経つに連れ、チャレンジ＆カバーが上手く行かなかったサイドから崩されてピンチを招いていた。

後半はフォーメーションを変えず、メンバーを大幅に入れ替えた。後半の選手は本来のポジションではない選手もおり、フィジカル面（特に高さ）でのミスマッチが気になった。後半開始直後に2本連続でCKを与える場面も有ったが高さのミスマッチを避けて粘り強くDFをする事が出来ていた。
また前半の課題であったサイドの高い位置からの守備については1st DFと2nd DFの役割を再確認した事で改善されていた。札幌トレセンは後半開始からGKを含めたビルドアップの中でボランチが落ちてきてボールを受け、そこから展開するという形が多くなった。

後半17分　札幌トレセンの右サイドからファーへの大きなクロスが上がり、高さに勝る相手にヘディングシュートを決められ同点とされる。（道央３-３札幌）セットプレー時であれば高さのあるCDFや他のポジションの選手によってケアできる面もあるが流れの中ではどうしてもこういったミスマッチが起こりえてしまうのでGKとの連携が必要不可欠である。

後半20分　右サイドで奪ったボールを⑳山本と⑪成田が2人で崩し、⑳山本が相手DFの足先を掠めるようなラストパスを送り⑪成田がGKと1対1になるも決めきれない。

後半33分　同点の中で得た右CK。高さのあるCDFを上げ、キッカー⑬小澤からのボールを③山崎がヘディンで叩き込み再びリードする。（道央４-３札幌）

後半34分　札幌トレセン陣内において３人の連動したプレスによって高い位置でボールを奪い、⑬小澤がドリブルでＰＡに侵入しラストパスを⑩佐倉井へ送るも決める事ができない。

後半38分　札幌トレセンのスルーパスが左SDFとCDFの間を通り、FWとGKが１対１になるもタイミングよく飛び出し防ぐ。

残り時間はチーム全体でハードワークし、４-３で勝利し勝ち点３を得ることが出来た。後半においても攻撃では前半と同様に手数を掛けずにFWに預けて、フィニッシュまで持って行くことが出来ていたが前半と比べると個での突破が多かったように思える。守備ではサイドの守備が改善された事も有り、大きく崩される場面は減ったが後半から出場した選手の中には途中出場の難しさもあるがプレースピードになかなか対応出来ず、特に攻から守の切り替えにおいて遅れを取る様子があった。

　試合を通じて攻撃に関しては楔から3人目が絡み、MFがFWを飛び越えて2列目から背後で受けたりする動きがあればより厚みのある攻撃が出来ると思う。また守備に関してはセットプレーやリスタート時のマークの確認、スムーズな1st DFの決定から連動してボールを奪いきる事が出来ればより良くなるのではないだろうか。最後に今リーグにおいては試合の勝敗に関わらず試合終了後にPK戦を行うことになっており、後半出場した選手の中から５人を選出した。道央の先攻で始まり、両チーム共に１人目と４人目が失敗し、道央は５人目が確実に決め、札幌トレセンの５人目をGKがセーブしPKにおいても３-２での勝利を手にすることが出来た。これによって勝ち点１を追加し第１節で勝ち点４を得ることが出来た。